

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### 2.1 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、基準地点尾崎樋門において、既往最大規模の降雨により発生する流量である  $48 \text{ m}^3/\text{s}$  とし、これを河道に配分する。

表 2.1 基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )	河道への配分流量 ( $\text{m}^3/\text{s}$ )
尾崎川	尾崎樋門	48	48

### 2.2 主要な地点における計画高水流量に関する事項

尾崎川における計画高水流量は、基準地点尾崎樋門において  $48 \text{ m}^3/\text{s}$  とする。

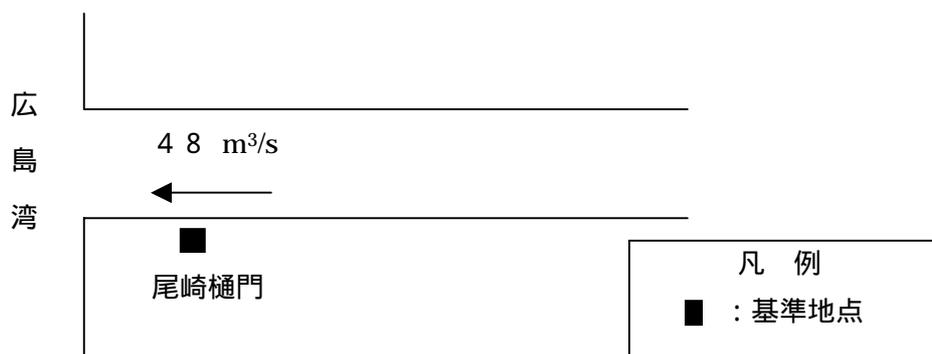


図 2.1 計画高水流量配分図

### 2.3 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次のとおりとする。

表 2.2 主要地点における計画諸元一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)
尾崎川	尾崎樋門	0.0	-0.33	18

注) T.P: 東京湾中等潮位

#### 2.4 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

尾崎川においては、下水道整備が進められ、水質については改善の状況が見られるが、依然として、沿川において下水臭等の不快な臭気が発生しており、河川に生息・生育する動植物等にとっても良好な環境とはなっていない。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、流水の清潔の保持、動植物の保護等を考慮し、「日常生活において不快を感じない程度」である水質環境基準のE類型相当の水質を目標として、海田高校前地点において概ね  $0.17\text{m}^3/\text{s}$  とする。